



2018年号 青峰同窓会会報



東紀州熊野古道伊勢路より七里御浜を望む

INDEX

会長挨拶……………	1	新任教員挨拶……………	11
新任校長挨拶……………	1	29年度	
学生ロボコンに参加して ……	2	■熊澤 美弓(教養教育科)	
ソーラーカーレース 2018 鈴鹿 ……	3	■村松 愛梨奈(教養教育科)	
2018 Ene-1GP SUZUKAの結果		■今田 一姫(生物応用化学科)	
卒業生便り……………	3	30年度	
■限定的な同窓会		■古野 百合(教養教育科)	
■高専祭当日の卒業生の集い		■正木 彰伍(機械工学科)	
■OB親睦ゴルフコンペ		■生田 智敬(電気電子工学科)	
■工化関西同門会の立ち上げ		教員交流を終えて……………	14
退職教員挨拶……………	8	■山崎 賢二(教養教育科)	
■新田 保次(8代目校長)		■船越 邦夫(生物応用化学科)	
■澤田 善秋(生物応用化学科)		テクノプラザ便り……………	16
■宗内 篤夫(材料工学科)			



ご挨拶

青峰同窓会 会長 小手川 智 (42C卒)

同窓会会員の皆様にはお変わりなくご健勝のことと存じます。

同窓会会報を今年から9月発行いたします。例年10月第三週に高専祭が開催されますので、高専祭のご案内もさせていただきます。今年の開催日は10月20・21日です。高専祭に合わせて卒業生有志の集会があります。今年はテニス部OB同好会、茶道部・華道部OBOG会、化学系関西同門会などが開催を予定しております。学生の各イベントを見学しつつ、卒業生の旧交を温めようというものです。卒業年次の早期の方には母校の発展ぶりを見ていただきたい、校内にあるイノベーション交流プラザには50周年記念ギャラリーが設置されており歴史と変遷を観ることができます。是非来校いただきたいと思っております。

卒業生の母校との協働による会合をご紹介します。

1. 鈴鹿高専テクノプラザ：卒業生が中心となって運営をしています。産学官連携の「ものづくり支援」が趣旨で会員企業との共同研究、技術支

援、情報提供、出前講座を行っております。会員数は約100社となり充実した組織となっています。

2. 鈴鹿高専サポーターズクラブ：高専に対する予算(運営費)が徐々に削減されています。影響が及ぶのが教官の研究費と聞いております。卒業生、校長先生、教官約10名で会合(これまでに5回)を持って協議しております。今後同窓会員の皆様にご支援、ご協力をいただくこともあろうかと思っております。逐次ご報告いたします。

ここ数年会報にて、災害、防災の事を記述していましたが今年も6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨災害と大きな災害が発生しております。災害は予告なく発生します。自分の命は自分で守る「自助」が肝要と言われております。皆様におかれましては十分な配慮を心がけていただきたいと思います。

同窓会員の皆様のご健康とご多幸を祈念してご挨拶とします。



新任校長挨拶

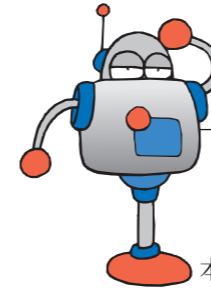
新任校長 吉田 潤一

本年4月に鈴鹿高専に校長に着任いたしました。現在、有機合成化学協会の会長や科学技術振興機構のCREST「革新的反応」の研究総括も務めております。これまでの高専とのかかわりは、大阪市立大学に勤めているときに和歌山高専の非常勤講師として講義と実習を担当したことです。当時の工業化学科の学生に、分子モデルを利用してFOTRANというプログラミング言語を教えていました。優秀で自立心の強い学生さんが多いというのが当時の印象でした。また、京都大学時代の研究室の卒業生が奈良高専で准教授を務めており、以前から高専に関心をもっていました。私の専門は合成化学で、とくに細い流路の中に溶液を流しながら物質を合成するフロー・マイクロ合成の開拓に取り組んできました。全くのゼロからのスタートでしたが、すでに工業的製造に利用している企業もあり、これからの発展が楽しみです。この分野でも地域の産

業にお役にたてればと思っています。

さて、高専は、来年から5年間の第4期中期目標期間が始まり、高専全体として新しいステージに入ろうとしています。高専をとりまく社会的な環境も大きく変化しつつあり、今、学科の再編が求められています。高専ならではの特色のある教育と研究を如何に発展させるのが課題で、そのためには実効性のある組織的な機能強化が必要です。しかし、国からの基盤的経費が年々削減しているのが現状で、鈴鹿高専独自の経済的基盤も強化する必要があります。私は、この危機をむしろ変革のための絶好の機会ととらえ、これまでの経験を生かすとともに教職員や学生のみならず知恵を出しあい、よりすばらしい鈴鹿高専をつくりあげるよう、力を尽くしたいと思っています。

どうかよろしくお願い致します。

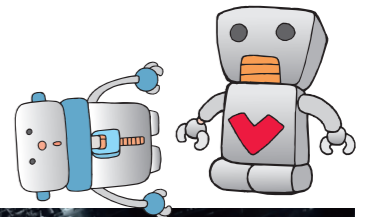


学生ロボコンに参加して

機械工業科 准教授 打田 正樹

学生ロボコンとは、NHKが主催する日本を代表するロボット競技会の一つで、高等教育機関に所属する学生に参加資格があります。その歴史は15年あり、東京大学や豊橋技術科学大学が強豪校として有名です。学生ロボコンは、8月末のルール発表からスタートします。その後、書類審査、1、2次のビデオ審査を通過すると全国大会へ出場できます。2018年の競技課題はシャトルコックスローイングというもので、シャトルコックという紐がついたボールを発射し、高いところに設置された直径80cmのリングを通過させ、決められた場所に着地させるというものです。発射の精度、スピードが勝敗を左右するカギとなります。さて、この学生ロボコンに参加することになった発端は、中重君の参加したいという言葉です。中重君は、これまで高専ロボコンで様々なロボットの設計に携わってきた学生です。また中重君と相談し、学生ロボコンに参加する目的を、全国大会に出場すること、特徴的なロボットを製作することの二つに決定しました。9月末ごろから、ロボット製作に入りました。機構の設計・製作、回路製作を中重君が担当し、私が全体的な指導を行いました。2か月ほどかかりプロトタイプが完成しました。そこから、古川君と専攻科のフェイスンさんがチームに加わりました。古川君は、センサの調整、プログラムを担当しました。3月ごろには競技を完遂できるようになっており、無事2次ビデオ審査を通過することができました。この時点で当初の目的である全国大会出場を達成することができました。その後、ピットメンバーとして宮本君と真砂さんがチームに加わりました。様々な対策を施し、全国大会に挑みました。全国大会には、全国から選ばれた24校が参加します。その参加校の中には、たくさん見た顔がありました。東京大学チームの選手として、簀内君の顔がありました。簀内君は、本校から東京大学に編入した学生で、本校の高専ロボコン出場ロボットの開発に携わってきました。また、豊橋技術大学には西川君が参加していました。西川君も本校のロボコンプロジェクトの出身で、簀内君と同じく、

鈴鹿高専の技術を積み上げてきた学生の一人です。その他にも、高専ロボコンの全国大会や交流会で見た他高専出身の学生の顔ぶれがありました。さて、大会本番は、予選リーグと決勝トーナメントから構成されます。本校のチームは、強豪校である金沢工業大学と名古屋工業大学と同じリーグになってしまい、一回戦は金沢工業大学との試合でした。金沢工業大学には少しの差で勝利することができました。この勝利は高専からの参加校で初めてのことでした。二回戦の相手は名古屋工業大学でした。この勝負に勝つことができると決勝トーナメントに進出することができますが、負けてしまいました。しかしながら、簀内君の東京大学チームと西川君の豊橋技術科学大学チームはかなり健闘しており、本校のチームが負けてしまっただけでは応援に徹していました。そして、決勝戦は簀内君と西川君のチームの戦いとなりました。本校出身でよく知っている学生の戦いでもあり、手に汗を握りました。最終的には、少しの差で東京大学チームの優勝となりました。この決勝戦を舞台袖で見ることができ、かなり感動しました。学生ロボコン全国大会に参加し、本校出身の学生だけではなく高専出身の学生が中心的に活躍していることを伺い知ることができました。また、そのような学生が無我夢中に頑張っているところを近くで見ることができ、東南アジアの勢いに追われる中、日本にも明るい兆しがあることを感じることもできました。



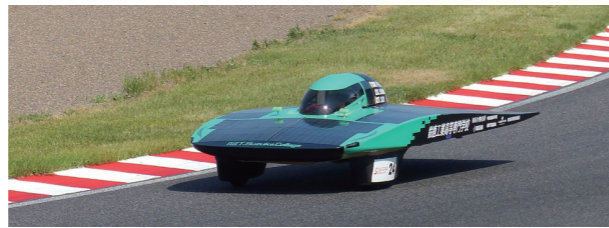
ソーラーカーレース2018鈴鹿 2018 Ene-1 GP SUZUKAの結果

8月4日に「ソーラーカーレース2018鈴鹿」が、8月5日に「2018 Ene-1 GP SUZUKA」が鈴鹿サーキットで行われました。

ソーラーカーレースでは、鈴鹿高専が出場した5時間耐久レースは総合21台中17位、チャレンジクラス5台中5位の成績でした。

Ene-1 GPでは、KV-BIKEのプロジェクトCチームがクラス2位で表彰されました。また、プロジェクトBチームは新車両での挑戦でパンクの為リタイヤでしたが、ドライバーの安全性を重視した車両設計が認められ技術賞を受賞しました。

詳しい結果などは両レースの公式HPなどをご覧ください。来年もまた挑戦しますので、皆さまのご支援・ご声援をよろしくお願い申し上げます。



卒業生便り



限定的な同窓会

2017年クリスマスイブのお昼から、地域限定的な同窓会をやりました。

始まりはその前の2016年の年末、名古屋周辺に住む卒業生を中心に数人で忘年会を実施した時に同窓会をやるかという話になっていました。私もその発起人になる予定でしたが、調整開始が公私ともにいろいろあり11月末になってしまい、東海地方を中心に集まれる方、連絡できた方となりました。大阪府、滋賀県からも出席いただきましたが、連絡が限定的になってしまいました。このクリスマスイブの日は同窓会の準備のつもりではじめましたが、参加が可能であればと12月のはじめから関東、関西を含め30名ぐらいには、ご案内を差し上げました。しかし、やはり急なことで都合が付かない方が多くなってしまい地域限定的となりました。

11月終わってからKさんと二人で準備を進めたのですが、前記のように調整開始が遅く事前の確認でなるべ



く都合がつく方が多い日としてクリスマスイブとなりました。クリスマスコンサートの予定で参加できないというリッチな計画をされていた方もいましたが、多くの方は子供たちも成長し、奥様方も寛容になったようでクリスマスイブだから都合がつかないという方は少なかった様です。ただ、やはりクリスマスイブとあって、なかなか良さそうな会場が取れませんでした。

辻 誠三 (49E卒)

しかしインターネット時代は便利なもので、十数人入れる名古屋駅近くの店を何とか見つける事ができました。限定的とは行っても、やはり年末の忙しい時期で、「顔は出したい」「一応出席」などの都合が寄せられ、結局最終人数が決まったのは、3日前でした。本格的な同窓会の場合はこの人数の2~3倍ぐらいになるわけで、会場探しだけでも大変だろうと想像します。また、遠方の方を考えると1泊することも必要そうで、会場探しは結構苦勞しそうです。

無事当日になり、お昼の1時から会食になりました。とても印象的なのは、再会した瞬間から卒業当時に一瞬で戻るといえるのは、やはり皆さん5年間という長く深い付き合いの結果、根っこの部分でいつもつながっている絆があるように感じました。私たちの会には、卒業前にコースを変えた人も参加いただき、つまり44年入学電気工学科としてお声掛けし、とても良かったと感じています。

そして鈴鹿高専の中川元斗先生には、卒業生名簿、連絡先の関係で大変お世話になりました。お送りいただいた名簿は卒業年度でしたが、私達は44E(入学)と知っているルメンバーが多く、卒業までにコースを変えた方についても、「彼はいま〇〇をしている」等と、話題になりました。前回15年ほど前に行った同窓会の時も同じように、一緒に学んだ仲間として、中退をした方々にも案内と参加を頂いていたように思います。今回も、参加されたMさんは大学の工学部を出て、現在もロボット関係で業界では知られているとのことでした。Fさんは結局ご親戚のご不幸があり不参加でしたが、商社を退職された後、今は長野で農場をやっているという情報が入ってきました。結構中退をした方について、覚えている、覚えていないということをも含め話題は多かったと思います。

なんと言っても我々は今年65歳(当時64歳)で、ご多分に漏れず、やはり一番多かった話題は病気の話ではないでしょうか。もちろん「どこも悪くない」という健康保険所の責任者をやっている人もいましたが、心筋梗塞、脳梗塞、肺血栓塞栓症といった「血管つまり気味の人」、糖尿病、高血圧、高脂血症、3大成人病はもちろん、おしり、肩、腰、アレルギーといろいろの疾患があるものです。しかし、集まったメンバーは「現状治療は続けている人もすこぶる元気」という感じで、大変賑やかな病気談議でした。中には正月明けに再手術という剛の者もいて、飲み会は大丈夫なのかと皆が息をのんだ場面もありました。一つの結論は、病気も運の良さと早めの検診が効いているという話でした。

サッカーの審判講義中に倒れすぐに病院に運ばれた人、気分を悪くしたのが病院の近くだった人、風邪のつもりで受けた初診で血栓が見つかった人、早めに気になる症状を病院で訴えた人など。早期治療は、基本ですので、やはり運は天にまかせ、自分は早期検診に努めるというのが大事なのでしょう。一病息災、これからもみんな元気でやっつけようという誓い合いました。

それから皆さん何らかの仕事をしておられ、さすが朝練で鍛えられた寮時代の勤勉さのおかげかなと頼もしさを感じました。業種は様々で、ボランティア、保健所所長、発電所建設関係、コンサルタント、会社勤め、自営業等々、私も大学で特許関連の仕事が続いています。本当に色々な経験、資格の持ち主がおられ、これからも老け込まずに、このネットワークを生かして充実した社会貢献や仕事、私生活につながれば良いと感じました。

2時間という時間はあっという間に過ぎ、みんなまだまだ話をしたいという人ばかりで、喫茶店派とカラオケ派に分かれはしましたが、引き続き昔話に花を咲かせました。カラオケ派といっても、誰も歌わず昔話であっという間に時間が過ぎました。私はカラオケ派に入ったのですが、入学したときトップの者がクラスの委員長になる話とか、就職するとき企業からスカウトされていた人がいた話や、誰々は今何をしている、孫が何人いるといった話が滞ることなく続く様は爽快でした。喫茶店派も同様の様で、どういうわけか再び全員が集まり、握手、再会を誓う挨拶をして、帰路につく人、二次会に行く人それぞれでしたが、皆さん一日充実した気分で過ごせた様だと感じました。

皆様お疲れ様でした。また呼びかけが遅く、またはご連絡ができずに参加いただけなかった方々には、今回はご容赦いただき、なるべく早い時期に、何らかの形でお会いできればと思っています。

最後になりましたが、鈴鹿高専の先生・職員の皆様、卒業生、在校生の皆様、これからも幸多きことをお祈り致します。



高専祭当日の卒業生の集い

『卒業生の集い』企画・実行：茶道華道サークルOBORG

■日時：10月21日(日)高専祭当日 13時～15時 ■場所：イノベーション交流プラザ(旧3寮)3階和室
 茶菓子用意してます。卒業生男女、カップル、お子さん連れ大歓迎。 茶道華道サークルの恩師加藤昭子先生も参加されます。
 イノベーション交流プラザには高専の50年記念展示室もありますのでぜひお立ち寄りください。
 有志親睦会も16時から白子「東樽」にて会席料理(4千円)と美酒で。
 料理の都合上事前に伊藤栄一(6ページのゴルフコンペの申し込み先)までご連絡ください。(掲載責任者:片山・西尾)



第1回 交流テニス会 参加者募集

鈴鹿高専の学生、OB、OG、現、旧の教職員方との交流テニス会(硬式)
 高専祭との同時開催、交流イベント 昼休みには学生達の高専祭を楽しみましょう。
 高専祭ご担当:西村先生 硬式テニス部長:柴垣先生



- ・日時 2018年10月21日(日) 10:30～16:00
- ・場所 高専テニスコート 雨天は中止
- ・進め方 10:30時から4人揃えば随時ゲームを始め6ゲーム先取で修了。(ルールは参加人数によって変更あり。)
- ・会費 ボール代として500円から。参加者は原則として登録が必要です。

参加予定者(順不同、敬称略):平松(43E卒)、田中(43E卒)、奥貞二先生(45C卒)、松林嘉熙先生、田村先生、桑原先生、八木元事務官
 昨年(巨大台風直撃のためテニス会中止)一度は名前が挙がった方(順不同、敬称略):浜辺昭雄先生、宮崎雄三先生、中井先生、井上哲
 雄先生(46H卒)、八木(43E卒)、川喜田(43E卒)、青木(テニスOB)、岡本(バレーOB)、山口(野球OB)、新田保次前校長
 ※多くの方に参加頂ける事を期待します。来年に繋げるためにも是非、この案内文をテニス愛好家にお伝え下さい。



下記メールアドレスに「テニス会参加希望」として連絡下さい。

テニス会専用、平松のmail:0705noboru@gmail.com 幹事:平松昇(43E卒) 協力:奥貞二先生(45C卒)

『久しぶりに弘道館で顔合わせを』柔道部のOB会

昨年は台風で中止しましたが、お約束通り10月21日(日)の高専祭の日に開催します。

- ①13時迄に「イノベーションプラザ(旧3寮)」3階和室へ集合下さい。
- ②集合次第、弘道館に移動。小藪先生の肖像画に一礼し、乱取りを(これは冗談)。😊 昔を思い出し話し懇談を。
- ③15時から白子の東樽で懇親会
 寝業で先生に押え込まれた時、先生の腹で窒息しそうに…。柔道OBだけでなく集団課業や寒稽古で柔道した人も集まれ!



鈴鹿高専OB親睦ゴルフコンペ

実行委員会事務局

平成27年5月30日(土)から始まったOB親睦ゴルフコンペ。春には、平日で桜の見事な三重CC。
 秋には土曜に地元の鈴鹿CCで開催を企画しています。本年10月13日(土)に第6回を鈴鹿CCで開催します。
 そこで本号には、第5回までの年次別参加状況・結果並びに第6回の紹介をします。

<年次別参加状況> 現在82名の方が登録され延べ198名が参加されています。

期	登録数	入学年	1回参加者数 2015.5.30 鈴鹿CC中	2回参加者数 2016.6.8 鈴鹿CC中	3回参加者数 2017.5.27 鈴鹿CC西	4回参加者数 2017.10.13 三重CC	5回参加者数 2018.4.11 三重CC	延べ参加数
1期	8	37	6	5	4	4	3	22
2期	1	38	0	1	1	0	0	2
3期	3	39	3	0	0	0	0	3
4期	0	40	0	0	0	0	0	0
5期	4	41	0	2	1	4	1	8
6期	24	42	9	10	10	18	12	59
7期	9	43	5	6	2	6	4	23
8期	1	44	1	0	1	1	1	4
9期	14	45	7	9	7	7	6	36
10期	3	46	3	2	0	0	0	5
11期	4	47	1	2	0	3	4	10
12期	2	48	1	2	2	0	2	7
13期	2	49	1	1	2	0	1	5
14期	1	50	1	1	1	0	0	3
15期以降	8	51	2	6	2	0	1	11
	82		40	47	33	43	35	198



優勝杯と第3・4回連続優勝
45M 山口さん

<鈴鹿高専OB親睦ゴルフコンペ経歴>

敬称略・入学年度学科 2018.7.21

第1回 2015年(H27年) 5月30日(土) 鈴鹿CC中コース 40名参加
 優勝 45M 川口95 HC22.8 ベスグロ 37E 太田見 79
 平均 101 70台1名 80台2名 90台12名 100以上25名
 コンペ報告同窓会報「青峰2015年号」投稿

第2回 2016年(H28年) 5月18日(土) 鈴鹿CC中コース 47名参加
 伊勢志摩サミットで6月実施に&女性初参加
 優勝 42C 杉森92 HC18.0 ベスグロ 37M 小島 82
 平均 105 70台0名 80台2名 90台15名 100以上29名
 コンペ報告同窓会報「青峰2016年号」投稿

第3回 2017年(H29年) 5月27日(土) 鈴鹿CC西コース 33名参加
 優勝 45M 山口80 HC10.8 ベスグロ 42C 野崎 82
 平均 98 70台1名 80台5名 90台13名 100以上14名
 コンペ報告同窓会報「青峰2017年号」投稿

第4回 2017年(H29年) 10月13日(金) 三重CC 43名参加
 優勝 45M 山口81 HC8.4 ベスグロ 42C 野崎 45M 山口 81
 最小バット 42C 野崎26
 平均 103 70台0名 80台7名 90台12名 100以上24名
 コンペ報告同窓会報「青峰2018年号」に投稿

第5回 2018年(H30年) 4月11日(水) 三重CC 35名参加
 優勝 42C 田中94 HC21.6 ベスグロ 45M 山口 73
 最小バット 42C 杉森29
 平均 101 70台1名 80台4名 90台14名 100以上16名
 コンペ報告同窓会報「青峰2018年号」に投稿



第5回三重CC 開会式



第5回三重CC 表彰式

第6回鈴鹿高専OB親睦ゴルフコンペ開催のご案内

お陰様で8月25日現在下記の50名の方から参加申し込みがありました。

1期2名 2期1名 5期2名 6期11名 7期6名 9期10名 10期1名 11期3名 12期2名 13期3名
 14期1名 16期1名 20期3名 22期1名 24期1名 28期2名 合計50名

本記事をご覧になり、参加をご希望される方は是非事務局へご連絡下さい。

参加募集内容

1. 日時：平成30年10月13日(土) 8時に中央練習グリーンに集合
 働いている仲間の参加しやすいように秋は、土曜日に。
2. コース：鈴鹿カントリークラブ 中コース
 TEL259-265-3311 津市芸濃町楠原2417-1 東名阪亀山ICを出て名阪国道IC降りて5分。
3. スタート時刻：アウト・イン 8:23～ 同時スタート 各8組
4. プレイ費：14,000円(利用税、消費税込み) 超お値打ち
 カートセルフプレー、昼食+1ドリンク(ビールOK)、茶店ソフトドリンク各1本
 パーティ:オードブル+1ドリンク(ビールOK)
5. 会費：1,000円を徴収し豪華?賞品と参加賞に。
6. 申し込み：今回は7期生が事務局を担当。受付担当は電気科 伊藤栄一
 090-6597-0070(ソフトバンクのスマホ)へ入学年・学科・ご芳名・メールアドレスを
 SMSで送信いただければ、Siメールで返信します。 以上事務局



工化関西同門会の立ち上げと “2018高専祭見学&フォーラム開催”in 鈴鹿

上野 義弘(42C卒/文責)・保院 俊之(42C卒)・清水 啓吾(43C卒)・島田 博司(44C卒)

母校 鈴鹿高専も今年で創立56年。卒業生も51期:約9,000名になると聞きます。
工業化学科(現在は、生物応用化学科)も、親交のある10期生前後までは年度ごとにクラス会として、中には海外や奥さま同伴での旅行等々活発に活動され、各期の幹事を軸に相互連絡のネットワークもしっかりしています。

一方、同じ学科/専攻とは言え年代を超え一堂に会して交流する機会は少なく、永続性のある《“たて串”ネットワーク》のしくみがあればよいのになぁ! 世代を超えて感性の違いや同じ専門分野を通じてのさまざまな話題をネタに交流できるしくみづくりも、50年を超える伝統校としての必要な要素かな?とも思います。

【1】工化関西同門会 キックオフ!!

そこで1-6期の方々の協力をいただきながら、関西在住の工化OBメンバーに呼びかけ、まずは1-11期の幹事役担当17名で2018年6月2日に幹事会を開催し、「久しぶりの母校訪問と高専祭見学・連携企画」を進めることとしました。もちろん楽しく期を超えた懇親・交流会も!



▲ 2018.6/2日
工化関西同門会の幹事役17名が集まりました。

【2】2018年イベント ?十年ぶりに高専祭に行こう!

・日時:2018年10月20日(土) 11時~15時

・場所:鈴鹿高専 2018高専祭

・プログラムの概要(予定)

11:00~12:00 想いでの学内見学ツアー

12:00~13:00 高専祭見学/フリータイム交流・学生屋台で軽昼食

(休憩&OB交流/たまり場:イノベーション交流プラザ1F)

13:00~13:30 工化関西同門会 第一回総会:イノベーション交流プラザ2F

13:30~15:00 高専祭連携企画フォーラム:イノベーション交流プラザ2F

“鈴鹿高専50年の変遷と更なる母校/後輩の躍進へ!輝く100周年に向かって”

「基調講演+全員参画で意見交換」⇒“われわれOBができること”

15:30~18:00 工化関西同門会 交流・懇親会 :白子周辺開催で準備中です。

● 高専祭連携企画への参加は 工化(C)OBだけでなくM・E・H(S)・IのOBもall WELLCOMEです。

この機会にぜひ10月20日(土) 母校・高専祭にお越しく下さい。参加希望の方は、詳しいプログラム情報の連絡など準備の都合もありますので、10/6日までに下記 上野までメール連絡をお願いします。

[E-mail: yuyu-u@nike.eonet.ne.jp]

【3】工化関西同門幹事会 活動計画の策定&暑気払い懇親会を開催しました。

2018年7月28日京都で 工化OBの森さん(滋賀 厳浄寺住職)の案内で 西本願寺の参拝・貴重な文化財見学、そして上記高専祭連携プログラムの協議・確定等の会議…引き続き、牛肉たっぷりこだわりの関西風すき焼きで、またまた! 19名が楽しく懇親会を開催しました。ちなみに鍋奉行指導は、板長修行中OBの岡本さんでした。

● 12期(52C)以降の方も、ぜひ工化関西同門会に参加をお願いします。上記E-Mailに連絡をください。



2018.7/28日 4期森さんの案内で、西本願寺の参拝・秘宝文化財の見学も!



2018 高専祭連携企画の協議など、はじめに!会議もしました。



もちろん懇親会も! 4期岡本さんの指導で関西風すき焼きもばっちり!

退職 教員 挨拶

◎ 鈴鹿高専を退職するにあたって

8代目校長 新田 保次

この3月末をもって鈴鹿高専を退職しました。
2012年の4月から校長に着任し、6年間在職しました。この間、独立行政法人国立高等専門学校機構理事を4年間、鳥羽商船高専校長を2年間併任し、貴重な経験をさせていただきました。無事に、これらの職務が遂行できましたのも、皆様方のご支援の賜物と感謝しています。

同窓会の皆様には、2012年秋に開催されました本校創立50周年記念祝賀会、並びに各種行事に絶大なご支援をいただき、立派に記念事業を執り行うことができましたが、今でも鮮明にそのときの様子が浮かんでいきます。また、本校は、国立高専の一期校ですが、そのことを誇りとしつつ、伝統を継承しながら、いくつかの全国高専をリードする取り組みを行うことができました。その代表的な取り組みをご紹介しますと思います。

一つは教育に関することです。高専初のロボットエンジニアを育成する事業を、本校が中心となり3年間かけて行いました。その成果を現在取りまとめているのですが、同時に継承し、さらに発展する取り組みを行っています。

二つ目は、専攻科の高度化のための改組を行い、定員を増やすとともに、環境・資源、新機能・エネルギー、ロボットの三本柱でコースを編成し、これからの時代の要請に適応した人材育成を図ることにしました。同時に、本科、専攻科を貫く7年一貫の取り組みとして、世界的に活躍できるグローバル・



昨秋、モンゴルの国立大学や高専を訪問した際に、チンギスハーンの像の前にて

エンジニアを育てる、少数精鋭のプログラムを開設しています。

三つ目は、産学協働の取り組みとして、「鈴鹿高専テクノプラザ」を卒業生の力添えをいただきながら発足させることができました。現在、目標の100会員を達成でき、順調に発展しています。特に、学生の国際インターンシップの促進や教員との共同研究の発展に多大なご支援をいただいています。

他にも、情報セキュリティ分野を含め、鈴鹿高専を全国高専のトップランナーに押し上げ、持続させる取り組みを行っています。財政的に厳しさを増している現状のもとでは、一層、同窓会の皆様のご支援をお願いし、期待するところです。

最後に、重ねて、今までのご厚意に御礼を申し上げつつ、貴会の益々の発展、皆様方のご健勝を祈念し失礼します。

◎ 定年退職を迎えて

生物応用化学科 澤田 善秋 (50C卒)



2004年4月に49歳で母校に奉職してから14年が経ち、3月末をもって定年退職を迎えることになりました。

学生時代の5年間と非常勤講師時代の8年間を含めると27年間、本校のお世話になりました。

1月17日の最終講義の場で「高専卒・一技術屋の

半生」と題して学生時代から企業、教員時代も含めて高専卒業後、エンジニアとして人生をどう生きたのかについて、多くの学生さんを前に話をさせていただきました。高専卒業後、29年間、民間企業で働いた後に14年間、本校に奉職して合計43年間を一技術屋として過ごしました。民間企業でエンジニアとして働く傍ら学位、技術士を取得し母校の教壇に立つ機

会を得ました。本校への転職後は、担任、専攻主任、教務主事補、学生主事補を経て2013~2015年の3年間、学生主事を経験させて頂きました。学生主事時代には、若狭での新入生合宿研修、2年生のマレーシア研修旅行や高専際、鳥羽商船の海学祭との交流などは楽しい思い出です。辛かったのは、学生の自転車通学問題で「おまえんとこの学生はアホか」と2日、続けて怒鳴り込まれたことでした。白子駅からの通学で一時に450台もの自転車が本校に向かってきます。一列に整然と通学すると、自転車の長さを2m、車間距離1mで合計3mとすると3m×450台で1,350mの長さになります。現実的にはあり得ない話ですが、白子駅から学校までの半分以上の距離が自転車で埋め尽くされる計算になります。残念ながら一部の学生の横列運転、一時停止無視・飛出しが日常的に横行し近隣住民の方に迷惑をかけているのは事実です。根本的な解決策はありませんが、警察の指導、講話による啓発と警察OBによる街頭指導で地道に対応しているのが、現実です。

学科の授業では化学工学分野を、専攻科では技術者倫理を中心として担当しました。化学工学、化学設計製図の授業では、基礎、応用、実用と社会に出てからも役立つ内容を織り込んだため、試験での対応に多くの学生が苦勞したと思います。クラブ活動ではOBでもある男子バレー部の副顧問を13年間、務めさせて頂きました。その間、7回の全国大会も経験しました。研究では当初はカーボンナノチューブ、その後はバイオディーゼル燃料の製法に関する分野を手掛けてきま



した。それらの成果で学生を連れて高専シンポジウムで発表し、クラブ活動と併せて全国各地を訪れたのも楽しい思い出です。また、国際学会にも参加し楽しい時間を過ごすことが出来ました。また、研究室の卒業生と現役学生の交流、情報交換を目的に同門会を年1回開催して最終講義を終えてきました。年次は異なるものの、同じ研究室から数名が同じ会社に就職していることを鑑みると、影響は小さくないように思えます。本校から始まり本校で終わる技術屋としての半生を振り返ると、一言で言えば楽しく充実した日々であったと思います。健康で家族とともに過ごせた半生に悔いはありません。定年退職後も2年間、再雇用で引き続き授業を担当させて頂きました。人生80年を24時間とすると、現在19時過ぎで、あと5時間が残されています。人に迷惑をかけずに残りの時間も健康で楽しく過ごしたいと思います。これまでの知識と経験を活かして社会のために役立つことをできれば嬉しいです。お世話になった鈴鹿高専がこれから益々、発展することを願っています。

◎ 私の技術者人生を振り返る

材料工学科 宗内 篤夫

平成19年に鈴鹿高専に奉職して今年で11年となりますが、3月末で退職することになりました。もともと企業の技術者であり、大学院を卒業して約28年(1979-2007年) 東芝の研究所で23年間、韓国籍企業のサムスン電子の日本研究所で5年間勤務しておりました。この間、燃料電池の研究開発を継続して行っており、学生時代と鈴鹿高専での経歴を加えると約40年燃料電池一筋という少し変わった研究開発歴を持っています。

鈴鹿高専との最初の関わりは、30歳ぐらいのころに鈴鹿高専の学生さんを預かり、インターンシップの指導を3-4年間行ったのが初めてになります。その当時の担当は、小倉(弘幸)先生でしたが、いつもお土産に



最終講義にて

赤福を持ってきていただいたことをなぜかよく覚えています。学生さんは元気いっぱい、実験で特に、「測定や装置の組み立てなど非常によく体を動かすなあ」と感心したのを鮮明に覚えています。

鈴鹿高専にお世話になったのもやはり燃料電池が関係しております。当時鈴鹿市は、燃料電池特区に指定され、燃料電池に力を入れておりました。鈴鹿高専も官舎(現在、私が居住している隣の官舎)に家庭用の燃料電池を導入するなど積極的に推進していたように思います。そうした中、インターシップの後も縁がありました小倉(弘幸)先生に鈴鹿高専を紹介いただき、運良く採用されて現在に至っております。

技術者としての経歴上燃料電池の開発の大部分を占めておりますので、少し燃料電池に関する活動について述べさせていただきたいと思います。今から約40年前の学生のころに初めて燃料電池につき知りました。当時は、ほとんど誰一人として、燃料電池の名前を知りませんでした。わずかに、映画のアポロ11号で駆動源に使用されていた2基の燃料電池(専門的に言うとアルカリ形燃料電池)の一台が故障したが、何とか地球に帰還できたという内容のスペクタクル風映画で知る人ぞ知るといような状況でした。ちょうどその頃、燃料電池を電力発電所(10万kW程度の規模です。)に応用し発電効率を向上させようという動きがあり、まだ高効率の複合ガスタービンも開発されていない時代でしたので、大きな期待を持って開発が開始され、私もこの流れの中で重電(超大型の100万kW発電機を開発するメーカーの総称です。)も開発している東芝に入社して、本格的に燃料電池の研究開発を開始することになりました。その後は燃料電池の種類は代りましたが、継続して研究開発をしましたが、まだ世の中で「燃料電池」の名前は私を含む一部にしか知られていませんでした。大きな風が吹き始めたのは、1990年ごろから新型の燃料電池であるPEFCがカナダで開発されてからです。自家用車(現在の燃料電池自動車(FCEV)の原型です。)に搭載されるような小型のものが提案されてからです。私もこの流れにのり、いち早く研究開発を始めました。2000年(平成12年)ごろには、日本でも試作(プロトタイプ)のFCEV車や家庭用燃料電池コージェネレーション(エネファーム)が開発され、当時の小泉総理が運転して話題となり一躍「燃料電池」は有名になり、当時人気のあったニュースキャスターの久米宏がこの名前を呼んでくれた時には感動しました。その後も私のチームも参加しますが、国の助成を受けながら大規模な開発が進められました。現在では、FCEVは公道を走り、大阪-東京間を1.5往復走行でき、またエネファームは発売が開始され、累計で10万台を突破しました。私もこれらの技術開発の立ち上げ時期で技

術的な寄与をできたことを密かに誇りに思っております。

その後鈴鹿高専に奉職して、燃料電池の開発も行いましたが、特に記憶に残っているのが、授業や就職・進学指導に関することです。授業というものを行うのは、ほぼ初めてでしたので、自分なりに工夫しましたが、やはり戸惑うことばかりでした。一番感じたのは、専門知識を教えるのは、いかに難しいかということです。自分では非常にわかりやすく、丁寧に教えたつもりですが、学生から「わかりません。」と言われた時のショックは、非常に大きいものでした。自分の教え方やしゃべり方が悪いのか、本当に学生が理解できないからなのか判断できなかったからです。最近では、少しましになってきましたが、まだまだ自信は持てないような状態で、大きなカルチャーショックを経験しました。嬉しいカルチャーショックもありました。それは、学生との会話の中で感じたことでした。多くの学生が「純真」な気持ちで接してくれた時で、当方の指導・助言を素直に受け入れてくれた時です。会社ではとても感じることはできないものです。また、少し品格には欠けませんが、これまでの鈴鹿高専で最も楽しくかつ嬉しかったのは毎年行われる卒業式の後の謝恩会です。学生もリラックスできており、お互いに十分な意思疎通ができたと感じました。

鈴鹿高専に奉職した時、会社で得た経験を学生に伝えたいと宣言したわけですが、この点については、これも全く初めての経験でしたが、担任を5年行った時も少し感じましたが、その後行った3年間の就職・進学指導を行った時強く思いました。会社で経験したことをうまく伝えることができたと思います。それは、4年生の時は就職することを漠然とは意識しているが、5年生になりいざ就職を決める時、この時には4年生の時とは明らかに就職することへの態度の変化が見て取れます。この時期に、30年に及ぶ会社のさまざまな経験を話すと非常に興味を示し、受け入れてくれたように感じました。自分の経験が移植されたと思います。このようなことで、学生の人生設計の一部にでもなったとしたら、非常に名誉で嬉しいことだったと思います。わずか11年でしたが、多くの先生にご迷惑をおかけしながらも無事に勤めることができました。嫌な思いをされた先生もおられたかも知れませんが、この際水に流してもらおうと幸いです。またこれからの鈴鹿高専の発展を祈願しまして、退職の挨拶とさせていただきます。

29 年度 新任教員挨拶



着任のご挨拶

教養教育科 講師 熊澤 美弓

平成29年度に教養教育科講師として着任いたしました、熊澤美弓と申します。

人文社会教室に所属し、学生に国語の教員として、古典や現代文、言語表現学などを教えています。鈴鹿高専では、以前も非常勤講師として3年間お世話になったことがあります。高専教育に携わったのはこの時が初めてで、その後、豊橋技術科学大学や豊田高専などで非常勤講師を勤め、昨年の後半期の豊田高専での代理教員を経て、本校に着任いたしました。豊橋技術科学大学では、全国の高専から編入してきた学生の授業も担当していました。そういう見方であれば、私の高専教育の出発点は鈴鹿高専であり、「帰ってきた」と言えるかもしれません。しかし、非常勤講師と専任講師とではやはり関わる業務は大きく違い、昨年1年間は授業や部活、学内業務などに慣れるのに精一杯になっていたうちに1年があっという間に過ぎていったという印象です。

専門は日本近世文学、日本文化史です。中国発祥の「白澤」という神獣の東アジア、特に日本における受容や伝播についての研究を中心にしています。白澤は、主に日本の近世中期以降、民間では旅行の安全や病気避けのお守りとして広く受容されています。そのため、文学だけでなく、歴史学や民俗学など、色々な分野に係わる研究であり、フィールドワークや、古い文献や図像資料の調査を中心に研究を進めています。他にも妖怪などの地域の民俗文化や、愛知県豊田市にある用水史研究にもこれまで関わっています。

着任してから1年がたち、不慣れな部分はまだまだありますが、先生方、職員の皆様、時には学生たちにも助けられながら学校業務やソフトテニス部の顧問補佐など何とかこなしています。今年度は1年材料工学科の担任を務めています。初めての担任でとまどうことも多いですが、学生たちとともに学んでいきたいと考えています。

今後とも何卒よろしく願いいたします。



着任のご挨拶

教養教育科 助教 村松 愛梨奈

昨年度の4月より教養教育科の助教に着任致しました村松愛梨奈と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

鈴鹿高専では保健体育授業を担当させていただいております。今年度は2年生と4年生の実技授業を担当しており、前期はソフトボールとテニスの実技を教えています。そのため、この原稿を書いている今(6月)、既に日焼けを一通りし終えた茶色肌になりました。自身が高校生・大学生の頃、漠然と「社会人になったら日焼けをしないように気をつけて、色白になってハイヒールを履いて通勤する」と(何故か)誓ったものの、現在も学生時代と変わらずしっかり日焼けをして、運動靴にて遅く通勤させていただいております。未来はわからないのだと改めて思うとともに、夢であった研究者と教育者の両立ができる高専で勤務させていただいていることに改めて幸せを感じております。

さて、着任して、あっという間に1年と3ヶ月が経ちました。鈴鹿高専に着任前は、関東の体育系学生が多く所属する大学にて教員をしておりました。そのため、高専についてはまだまだ初心者で、知らないことも多くあります。そのたびに、日々周りの教職員の方や学生たちに色々教えていただきながら仕事を進めており、丁寧に指導して下さる周りの人々には大変感謝しております。また、今年は初めての担任も持たせていただき、初めての部活主顧問、委員会等の仕事など、初めてづくしで、とても新鮮な日々を過ごしております。新たに学ぶことの多さに戸惑うとともに、多くの経験をさせていただけることに、改めて感謝しております。

まだまだ未熟者で多くの方々にご迷惑をおかけするとは思いますが、少しでも、学生たちのため、また研究では学生だけでなく社会のためにも貢献できたらと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



高専での教員生活 酵母とともに

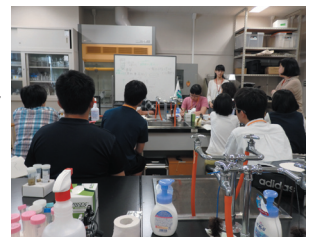
生物応用化学科 助教 今田 一姫

鈴鹿高専同窓会の皆さま、こんにちは。昨年度より生物応用化学科に着任いたしました、今田一姫と申します。専門は生物学で、分裂で増殖する酵母菌の一種を使って、胞子をつくるメカニズムを調べています。酵母の胞子は、母細胞の「中」に形成されます。通常、細胞は分割されることで増えるので、細胞の中に細胞が形成されるというのは、生物学的に非常に興味深い現象です。このような、いかにも理学的な研究をしているのですが、せっかく高専に来たので、酵母の胞子の性質を用いた工学的な研究も始めました。

また自身の研究とは別に、自然界から野生の酵母を分離する活動を始めました。現在の生物応用化学科の学生実習に加えて、全4回に渡る公開講座「酵母菌探索隊～自然界から野生の酵母を探そう!～」の第1回を昨年8月下旬に、第2回を今年6月の毎週土曜日に開催しました。参加者の方々が楽しんで酵母を探し、見つけた酵母に親しみを持ってくれたようで嬉しかったです。この実習は、過去に専攻科で行われてきた、野生酵母を使ったワイン醸造の実習を発展させたもの

です。これをご覧の同窓会生の皆さまの中には、技術職員の伊東さんと一緒にワイン造りをした方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

生物学は暗記科目だと捉えられがちです。もちろん基礎を覚えることは大事ですが、実際は生物の特性をよく観察し、普遍性や種間の違いを見出し、なぜそうなっているのか、どのようにして成し遂げているのかを考える学問です。意外なところで役立つもので、最近話題のヒアリ侵入に気付けたのも、安全な水や食品があるのも、高度な医療も、基本は生物学です。野生酵母の分離は、酵母と他の菌の違いを知り、酵母に有利な環境を作ることで選別しているだけで、これは酒造りの原理でもあります。本校で生物学は少数派ですが、興味のある学生さんは案外多いです。酵母の公開講座には、材料工学科や電子情報工学科の学生さん、機械工学科の教員も参加してくれました。これからも公開講座等を通して、生物学へのちょっとした興味を拾い上げていけたらと思っています。



30 年度 新任教員挨拶



着任のご挨拶

教養教育科 助教 古野 百合

皆様こんにちは。私は教養教育科に着任いたしました古野百合と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私は生まれは京都ですが、その後父の転勤によりシカゴ、神戸、香川、淡路島で育ちました。長らく県立高校で教鞭を執ってきましたが、この度ご縁あって鈴鹿工業高等専門学校に採用されました事をとても嬉しく思っております。県立高校では白子高校と津商業高校でお世話になり、多くのことを学び、経験することができました。鈴鹿高専でも、その経験が少しでも活かせたらと思っております。

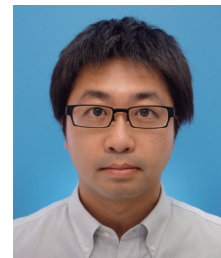
私の専門は19世紀イギリス文学研究、特にブロンテ3姉妹の研究を中心に行っています。現在私が読んでいるのは、ロマンス小説『ジェーン・エア』(Jane Eyre, 1847)で有名な長女シャーロットが挑戦した歴史小説、『シャーリー』(Shirley, 1849)という作品です。この作

品は産業革命により繊維工場の機械化が進み、それにより失業した過激な労働者たちがイギリス各地で引き起こしたラッドイト運動(Luddism)をもとに書かれた小説です。ラッドイト運動とは、1811年から1816年ごろにかけて起こった、主に羊毛及び綿工業労働者などによる機械打ちこわし運動のことを指します。

私はこの作品を読んでいて、現代社会に通じるものがあると感じています。新しい技術が生まれることは大変有難いことですが、それと同時に企業の統合や失業などの別の問題が生じます。新技術の革新が社会全体に及ぼす影響は多大です。もちろん技術の発展により、私たちの生活が便利で豊かになることは間違いありません。でもこれからは、以前にも増して様々な社会的影響を視野に入れた技術革新が必要なのではないかと思います。将棋ではありませんが、技術革新が社会全体に及ぼす影響を何手先も見通すことが必要なのかな

と思います。

少子化がますます進む日本社会において、高専で学ぶ若人たちが日本、また世界の未来を担っているといっても過言ではないと思います。そんな未来を担う鈴鹿高専生が、新しい発想を生み出すための助けとなる



着任のご挨拶

機械工学科 助教 正木 彰伍

はじめまして、本年4月1日付けで機械工学科助教に着任しました正木彰伍と申します。少し自己紹介をさせていただきます。出身は、静岡県は伊豆にあります河津町というところです。河津桜というご存知の方もいるかもしれません。高校入学から下宿し、世界遺産にも登録された反射炉の近くにありますが韮山高校に進学しました。大学、大学院は名古屋大学に進み、宇宙物理学を専攻しました。大規模シミュレーションを用いた研究を行い、2013年3月に博士号を取得した後、日本電信電話株式会社(NTT)に新卒入社しました。NTTでは、NTTセキュアプラットフォーム研究所の研究者としてセキュリティ分野のデータマイニング研究に5年従事しました。

中学生時に、近所にあった沼津高専の受験を考えましたが、数学の入試問題が難しいと断念した経験があります。そんな私から見ると、高専はある種の憧れをいただき続けたところだと思います。大学や会社で高専出身の優秀な方々を見るたび、やっぱりすごいななどと思ってい

であろう、豊かな人間性、情緒性の育成に、英語教育を通して少しでも寄与できるよう、努力していきたいと考えております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

ました。そんな自分が、高専の教員になるとは思っていませんでしたが、その分身の引き締まる思いです。現在は、3・4年生の応用数学、情報処理の授業を主に担当しています。恥ずかしながら機械工学科所属ではありますが、機械工学の専門知識はほぼ0です。しかしその分担当科目では、自分の経験を踏まえつつ、内容を噛み砕いて可能な限りわかりやすく伝えられたらと思っています。

自身の研究は、宇宙物理学においては暗黒物質や銀河進化、セキュリティにおいては個人情報保護といったものがキーワードです。やや奇妙な組み合わせですが、理工の知識を融合させて特色のある研究を展開できればと思っています。

高専という未知の場所で、教育という初めての仕事をやるにあたって、大変なことも多々ありますが、みなさんのおかげで、ここに来てよかったと思える毎日を過ごすことができている。精進してまいりますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。



着任のご挨拶

電気電子工学科 助教 生田 智敬

本年度から電気電子工学科の助教として着任いたしました生田智敬と申します。平成27年度から平成29年度までは徳島県の阿南高専、創造技術工学科電気コース助教として教鞭をとっていました。高専教員歴は4年目となりますが、鈴鹿高専についてはまだわからないことばかりのため、教職員の方や学生の皆さんから学ぶ毎日です。

私は、阿南高専から徳島大学へ編入学し、学位を取得しました。そのいずれにおいても電気電子工学を専攻しており広く電気系の分野について学んできました。現在の授業担当は、4年生の電気機器や5年生の情報通信工学といった授業を担当しています。現在の社会は、電気技術を基盤に成り立っています。長い歴史を

持つ電気技術ですが、それらを面白く思えるような授業作りを心がけていきたいと思っています。高専での5年間は長いようで短い。電気という目に見えないものを扱う分野ですが、諦めずに取り組めばその面白さがわかってきます。卒業するときに電気電子工学科で良かったといってもらえるように尽力していきます。

研究面においては、私は、徳島大学において、非線形工学に関する研究室に所属していました。非線形工学という名前はあまり馴染みがないかもしれませんが、電子回路におけるカオス現象や同期現象、はたまた数値計算アルゴリズムといった幅広いテーマについて取り組んでいる研究室です。その中でも、私はニューラルネットワークを専門にしてみました。ニューラルネットワークとは、脳内の神経細胞の情報伝播をモデル

にしたアルゴリズムであり、現在の人工知能(AI)研究の主流となっているものです。人の脳は、非常に複雑かつ精巧に作られており未だに再現することは実現されていません。それを一歩ずつでも解き明かしより優れたAIを開発するために日々研究に取り組んでいます。ニューラルネットワークを始めとするAIは、今後ますます社会の中で活用されていく技術です。興味のある

方は気軽に声をかけてください。

最後に、阿南高専での学生及び教員としての経験はありますが、同じ高専でも様々なだということを日々実感しております。まだまだ至らないところが多々あると思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

教員交流を終えて



平成28・29年度教員間交流を終えて

教養教育科 教授 山崎 賢二

平成28年4月から30年3月までの2年間、鳥羽商船高等専門学校に異動しました。思いつくままに振り返りながら、鳥羽商船を紹介します。

28年4月、当時の新田校長先生が鈴鹿と鳥羽の校長を兼任されており、「最後の2年間一緒に鳥羽に行きましょう」とお誘い頂いた教員生活がスタートした。鳥羽は、商船学科、電子機械工学科、制御情報工学科の3学科編成で、鈴鹿の5学科編成に比べ教職員数も少ないことから、お互いにフレンドリーな雰囲気があった。授業は従前からの「化学」の他に、「理科総合(地学)」、「環境化学」を担当した。また週1回鈴鹿の「化学」も担当し、土日を跨いで鈴鹿と鳥羽を往復して、鈴鹿の非常勤講師手当の削減に一役買った。鳥羽には「教務室」という部屋があり、常時教務主事補の先生一人が在室していて、1年生の私には心強い存在だった。定期試験の際は、この部屋で出題の先生と監督の先生との間で試験が直接受け渡された。試験が欠点の学生に対して、再試が2日間の再試専用時間割を設けて実施された。再試対象科目が無い学生は、うれしい休日となった。鳥羽にも学生寮があり、月に1~2回の宿直があった。教員数が少ないため鈴鹿より頻度が高く、また点呼は、一部屋ずつ呼名しながら巡回する方法をとっていた。定期試験期間中は、寮食堂に先生方が出られて、夜の勉強会が開かれた。

9月、商船学科の卒業証書授与式が行われた。商船学科は、乗船実習の関係で秋の卒業式となり、真っ白な制服に身を包み、最後に「ごきげんよう！」

の声とともに制帽を天井高く脱帽する格好いい卒業式だった。

10月、全国高等専門学校プログラミングコンテストが伊勢市観光文化会館で行われ、鳥羽が主管校を務めた。1~3年生が数学、物理、化学のCBTトライアル試験を受験した。学祭「海学祭」は、土曜日が準備日で日曜日1日での開催だった。練習船鳥羽丸の体験乗船は、商船



高専ならではのイベントだった。3月、快晴に恵まれ電子機械工学科、制御情報学科の卒業式が行われた。鈴鹿の卒業式にも出席した。

4月、鳥羽で2度目の入学式が行われた。以降30年3月までまた1年の繰り返しだった。私にとって、今まで鳥羽は「近くて縁遠い」存在だったが、今回のご縁で文字どおり「近くて親しい」高専となった。





『長岡技術科学大学』のある長岡市の紹介

生物応用化学科 教授 船越 邦夫

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの一年間、

高専・両技科大間教員交流制度で長岡技術科学大学にて研究をする機会を頂きました。この度、執筆の機会を頂きましたので、一年間過ごした長岡市について少し紹介させていただきます。

花火

長岡で最も大きなイベントに、「長岡花火」があります。これは長岡市の中心部を流れる信濃川の河川敷が会場となり、1日約1万発打ち上げられます。そのため8月2・3日の両日で約100万人が訪れるそうです。

花火を観覧するには、河川敷に設置される“指定席”から見る方法もありますが、多くの人はその他の自由席から



見えています。私がお世話になった研究室でも学生が前日の夜から場所取りに並び最高の席を取ってくれ、研究室全員で花火を見ながら宴会をしました。また花火の規模がとても大きいため、河川敷から離れた道端や空き地に椅子を置き、パーベキューなどをしながら観覧している人もいました。

花火を打ち上げている場所と観覧席が非常に近いので、2尺、1尺玉が頭上で華開くと光と音の迫力がものすごいです。「フェニックス」などは視界一面

では収まりきらない花火が打ちあがるため、どこを見ればよいか迷うほどです。また信濃川の川幅はとても広いので、3尺玉の打ち上げもあり迫力や美しさに見とれます。開催日が毎年8月2・3日と決まっていますので、機会がございましたら是非ご覧になられると良いと思います。

日本酒

新潟県はコシヒカリに代表される有名な米どころであり、酒造りも非常に盛んです。長岡市内だけでも16の蔵元があり、日本酒好きの方なら「久保田」や「吉乃川」は飲まれたことがあると思います。また少し昔の漫画「夏子の酒」のモデルとなった蔵元も長岡にあります。蔵元によって当然ながら味や喉ごしが異なるため、「高いものが美味しい」と決めつけず、様々な蔵元のいろいろな種類の日本酒を飲み比べて自分好みの1本を見つけられると良いと思います。10月には「越後長岡酒の陣」というイベントが開催され、全16の蔵元の自慢のお酒が飲み比べられるため、日本酒好きの方は訪れられてはと思います。

長岡の冬は晴れることがほとんどなく、たくさんの雪に囲まれ生活は大変ですが、それに勝るものがたくさんあります。是非足を運んで見て下さい。



鈴鹿高専同窓会員の皆様へ

鈴鹿高専テクノプラザ事務局

鈴鹿高専卒業生による知的シルバー人財バンクの設立(事前通知)

2013年(平成25年)に産学官の連携体制を構築し、ものづくり企業の発展に寄与するとともに、鈴鹿高専の教育研究の振興を図るべく「鈴鹿高専テクノプラザ」が設立され6年目を迎えています。現在の会員は企業会員99社、特別会員12団体、個人会員9名となっています。企業会員様から年間3万円、個人会員様から5千円を頂き、鈴鹿高専の教育研究の振興を図るとともに鈴鹿高専の人的・知的技術資源を活用して、地域産業界との連携・交流を深め、地域産業の発展に寄与しています。詳しくは以下のURLをご覧ください。

鈴鹿高専HP

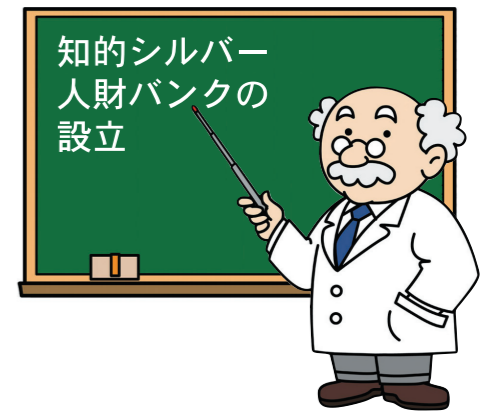
<http://www.suzuka-ct.ac.jp/>

テクノプラザHP

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/facilities/techno-plaza/>

一方、本校を巣立った卒業生は9千名を超え、各企業、大学等で活躍され定年退職を迎えられた卒業生も千名を超えると推定されます。趣味に没頭し悠々自適の生活を送られているかも知れませんが、これまでの知識・経験を世の中に役立てたいと思っている方も見えないのでしょうか。そうした卒業生の知識・経験を活かして地域企業技術者の教育、技術相談に貢

献すべく、テクノプラザとして「知的シルバー人財バンクの設立」を計画しています。法的な制約があるため、職業安定法に基づき関係各所と調整した上で取り進めます。詳細は秋の理事会で承認された後、HP上で報告させていただきます。具体的には、各人の知識・経験分野および出前講座(企業技術者教育)や技術相談可能な分野を登録頂き、会員企業に提示した上で企業の要請に応じて有償で活躍頂くこととなります。テクノプラザが窓口となり、無償で調整をさせていただきます。その際、個人会員になって頂ければ本校の教育研究推進のための原資として貢献頂けると思います。



また、テクノプラザの活動をさらに充実させるために、企業会員および個人会員の増強を検討しています。企業会員を現在の99社から120社への増強を目指しています。皆様の所属されている企業様に会員になってお問い合わせ・お申し込みは下記連絡先までお気軽に!

頂けると助かります。紙面の制約上、詳細を提示できないことが残念ですが、本校HPの鈴鹿高専テクノプラザのパナーでHPをご確認頂ければ幸いです。

平成29年度青峰同窓会会計報告

摘 要		金額(円)
収入の部	平成28年度からの繰越金	28,043,136
	平成29年新入会員(28年度卒業生207名)および新入会2名入会金・終身会費	2,299,000
	預金利息	2,077
	合 計	30,344,213
摘 要		金額(円)
収出の部	会報発行経費	866,264
	SNSサーバー構築費・利用管理費	195,480
	事務費	88,032
	先進的エンジニア育成基金寄付(29年度分)	1,000,000
	学生会への寄付(高専祭)	100,000
	平成30年度への繰越金	28,094,437
合 計	30,344,213	

連絡先

鈴鹿工業高等専門学校 総務課 (鈴鹿高専テクノプラザ 事務局)
 〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町 TEL:059-368-1717 FAX:059-387-0338
 Mail: technoplaza@jim.suzuka-ct.ac.jp